

第6学年 保護者の皆様へ

いのち ～生命の安全教育を実施しました（報告）～



令和7年12月2日（火）栃木県助産師会助産師の藤岡容子様を講師としてお招きし、ココロ・カラダ教室～自分を大切にするための性と健康の学び～【プライベートゾーンや性被害の理解を深める】ため、生命の安全教育を行いました。

児童の学習目標は、以下のとおりです。

- ①いのちを大切にする考え方や、自分や相手、一人一人を尊重する態度を身に付ける。
- ②性暴力がもたらす影響を正しく理解する。
- ③性犯罪・性暴力の加害者、被害者、傍観者（みてみぬふりをする人）にならないという強い意志をもち、行動にうつすことができる。

学年主任・養護教諭より、児童の皆さんへ以下について話をしました。

- 普段「性犯罪」や「性暴力」という言葉を耳にすることはあまりなく、遠い世界で起きていることと捉われがちだが、実際はそうではないこと。
- 性犯罪や性暴力の被害者の内訳をみると、20代以下の子供や若者が8割を超えていること。その中でも、10代以下の被害者は4割以上を占めているという事実（問題）がある。
- 被害者側だけに目を向けるのではなく、普段自分が何気なく友達にしている発言や行動が、相手や周囲の人の捉え方次第で性暴力の加害者や傍観者になり得ることも知っておいてほしい。
- 自分と相手の命を大切に考え行動できるよう、他者とよりよい関係でいるために大切なこととはどのようなことか、授業を通して学んでもらいたい。



1 命の大切さ、思春期について

既習事項ではありますが、生命のはじまりと誕生、いのちの連續性、二次性徴、ホルモンによる身体的・精神的变化について学習し、新生児模型の抱っこ体験や妊婦体験をしました。



2 プライベートゾーンについて

プライベートゾーン「水着で隠れる部分」は、自分だけの大切なところ

- ・自分のを見せない、触らせない、写真を撮らせない
- ・他人のを見ない、触らない、写真を撮らない
- ・「見せて」とか「触らせて」と言われても、「イヤ！」と言う

3 性暴力について【SNS等を通じた被害の例】

インターネットやスマートフォンは、性暴力に巻き込まれてしまうきっかけになることがある。

- ・インターネットで知り合った相手を簡単に信用しない。
- ・インターネットで知り合った相手はもちろん、交際相手や友達であっても下着姿や裸の写真を撮ったり、撮らせたり、送ったり、送らせたりしない。
- ・問題が起きたときは、一人で悩まず周囲の信頼できる大人や警察、相談窓口に相談する。

4 自分と相手を守るもの～距離感ってなに？～

- ①お互いに手を伸ばしても届かない距離
- ②お互いに手を伸ばせば、届く距離
- ③教室の机を横に並べた位の距離
- ④肌が触れるくらいの距離



心の距離感

どんなに仲のよい相手でも、いつも自分と同じ気持ちではありません。相手の気持ちを大切にし、自分の気持ちも大切にしましょう。

体の距離感

心地よい距離は、人によって違います。近寄られるのを嫌がる人もいます。

距離感が守られないときは、どうする？



- ・自分がいやだと感じたことは、いやだと言う
- ・相手がいやだと言ったら、距離をとる
- ・いやなときは、相手と距離を置いてみる
- ・自分の距離感が守られていないときは、信頼できる大人に相談する

すてきな関係でいるために…



- ・自分の気持ちを大切にしよう
あなたの本当の気持ちは？
- ・相手を大切にしよう
相手は自分の「もの」ではありません。
- ・言葉で伝えよう



お互いに、NOと言える関係をつくろう。適度な距離感をもとう。

5 おわりに～性暴力が起きないようにするためには～

性暴力の被害者と加害者を生まないためには、**自分を大切にし、相手も大切にして、相手とよりよい人間関係をつくることがとても大事です。**

よりよい関係をつくることは、性暴力を防ぐことにつながります。

自分を
大切にする

相手を
大切にする

暴力を
許さない



ココロ・カラダ教室を通して、自分の体を大切にすることについての理解、性暴力についての理解、自分と相手との心や体の距離感について、SNSを使うときに気を付けること、嫌なさわられ方をした場合の対応について等、振り返りシートには、「よく分かった」と回答した児童が9割以上を占めていました。

~~知らない人とからかわら友いつ~~
個人情報も言わない。写真をあらう。

~~はむかしかからず、勇気をもって、
「いや！」といふ。~~

~~いんき プライベートで、自分のいい感じ
インターネットで会った相手を簡単に信用しない。
自分を守ることははずかしいことない。是正離感
を考える。自分がいた感じをいかでといつ。
相手がいた感じを距離感とする。どんな仲の
友達でもいつも自分の感じがない。相手とバオナシ
もしもおひたさくもだめ。~~

○相手の心と自分の心は違う。でも相手の気持ちを分かう。

○自分もやめたけど相手も大切

○言葉で伝えるのが大切

○思ってるのは相手をさすげても

○DVは暴力だけじゃなくて言葉の暴力、あしもほいも（無理やりあしつけるのも）

△問題が起きたら、1人でなやまない。近くの信用できる大人、警察にうたづねる

~~「やめと言ったり先生、親見に行かんす~~

~~「いや、ため、やめて」自分を守ること、はむかいで
ことではない。自分相手大切いやなことをいやといふ
ゆうきもつただいじ情報、きりかん考えるおりなか
体のきりかん、心のきりかん、自分・相手のきりかん~~

~~自分は守る、正しいしようをえうが、
SNSのしようをへらしてみる。
しらいろ大人にうたんしてみる。
互いにこうじよてあそんでせりする。
すべてが正しいしようではない~~

○自分を守ることははずかしいことではない

○自分、木手を大切にする

○いやなことはことある

○より感を考える

○暴力をやめさない

○これがひがいにあわないために大切なこと

○スマートフォンも使い方をまちがえるとあが
ないものになる

○さへつをしない



子どもたちが性犯罪の被害に遭う機会が増加している現状・課題を受け、政府は、「性犯罪・性暴力対策の強化の方針(R2.6)」「性犯罪・性暴力対策の更なる強化の方針(R5.3)」(性犯罪・性暴力対策強化のための関係府省)を掲げました。

方針の取組の一つにある、【学校における生命(いのち)の安全教育推進事業】を受け、日光小学校では、6年生を対象に市健康課との連携のもと授業実践を図りました。

